

農業技術センターニュース

| 目次 | | | |
|--------------------------------------|-----|------------------------|-----|
| ナスフザリウム立枯病の薬剤防除 | … 1 | パプリカ促成栽培における加湿処理の影響 | … 5 |
| 土壌くん蒸剤の放出抑制モニタリング | … 2 | ユリ‘シベリア’の低コスト夜間冷房栽培の検討 | … 6 |
| 三色ピーマンの短期貯蔵技術 | … 3 | ニホンナシ新品種「はつまる」、「ほしあかり」 | … 7 |
| 高温耐性が優れ、白未熟粒の発生が少ない有望系統「関高 IL1 号」の特性 | … 4 | 海外ナス遺伝資源の特性調査をしています | … 8 |

ナスフザリウム立枯病の薬剤防除



写真 ナスフザリウム立枯病の症状(左)
本病に特徴的な赤色の分生子殻(右)

表1 感染前に薬剤散布した場合の防除効果

| 散布薬剤 | 発病主枝率(%) | |
|--------------|----------|--------|
| | 平成25年度 | 平成26年度 |
| セイビアーフロアブル20 | 2.8 | 4.2 |
| 無処理 | 61.1 | 20.8 |

*病原菌接種前日に薬剤を散布し、その約1ヵ月後に調査した。

表2 感染後に薬剤散布した場合の発病程度の推移

| 散布薬剤 | 発病程度の平均 | | |
|--------------|---------|-------|-------|
| | 1月30日 | 2月13日 | 2月26日 |
| セイビアーフロアブル20 | 1.0 | 1.6 | 2.1 |
| 無処理 | 0.7 | 1.2 | 1.7 |

*感染確認後の1月30日および2月13日に薬剤を散布した。発病程度は、0(発病なし)、1(主枝の一部が黒ずみ凹んでいる)、2(上位葉が萎凋している)、3(枯死している)で評価し、その平均値を求めた。

ナスフザリウム立枯病は、株元や枝が腐敗し感染部位から上位がしおれ、やがて枯死する病害です(写真)。本病害には登録農薬がなかったため、防除効果の高い薬剤の探索を行いました。

ナスに登録のある殺菌剤の防除効果を調べたところ、セイビアーフロアブル20の効果が高いことが明らかになりました。そこで、農薬メーカーと連携して、本剤の登録拡大に向けた試験を行い、2015年2月にナスフザリウム立枯病に農薬登録されました。

セイビアーフロアブル20は、感染前に予防的に散布することで高い防除効果を発揮します(表1)。一方、感染後に散布しても病気の進行を抑えることはできません(表2)。ナスフザリウム立枯病は病気の進行が遅く、しおれが認められる約1ヵ月前には感染していますので、薬剤散布は発病前に行うことが重要です。また、収穫や整枝による傷口から感染するため、傷口に十分薬剤がかかるよう散布することも重要です。

(病理担当 岡田知之 088-863-4915)